

Dickens の小説における時間と時計

Oliver Twist、*Hard Times*、*Great Expectations* に関する考察

中越 亜理紗

1. はじめに

19 世紀のイギリス小説は構造的リアリズム(structural realism)というモードが支配的であったが、そのような厳密な作品世界の構築に不可欠だった要素として<時間>がある。そして、時間を知らしめるものとして<時計>が作中に現れる。

Charles Dickens の小説においては、そのような時計と時間の様々なヴァリエーションが登場する。本稿では、彼の小説における時計と時間の人物や空間との関係や、作品中での役割を探るべく、*Oliver Twist* (1838)、*Hard Times* (1854)、*Great Expectations* (1861)の3つの作品を扱う。*Oliver Twist* では Oliver と悪党たち、*Hard Times* では Mr. Gradgrind、*Great Expectations* では Joe、Miss Havisham、Pip の時計と時間を考察する。そして、時間とその象徴である時計がいかに関係人物の行動や空間の在り方を支配者しているかを示す。

2. *Oliver Twist* における時間と時計

Oliver Twist において、語り手はよく登場人物の行動を時刻と共に記し、人々の台詞でも時刻や時間に関する言及は多い。そして、しばしば余裕がなく惜しいものとして描かれる時間は、それを扱う者である孤児、労働者、泥棒、悪党など下層階級の登場人物たちの行動の忙しなさやゆとりの無さを物語っている。また、この作品に現れる主な時計は“church bell”や“church clock”などロンドンの街に響き渡る教会のものである。作品の副題が *The Parish Boy's Progress* であることから伺えるように、当時は教会が社会という空間における生活の基盤であったのだ。

第一に、Oliver と時間の関係を見てみると、彼は周りの人々によって大抵の場合急かされていることが分かる。身寄りの無い孤児で救貧院に入っている彼は、“So you’ll begin to pick oakum to-morrow morning at six o’clock”¹ という風に 6 時という早朝から労働を強いられ、時間通りに動くように指示される。これは Brownlow 氏という優しい紳士が彼におつかいを頼む場面で “Come up to me to-morrow morning at ten o’clock, my dear”² と遅めの 10 時を指定するのと対照的とも言える。

Oliver は Sowerberry 家でこき使われるときもしょっちゅう急かされる。“Run to Mr. Bumble, Noah, and tell him to come here directly, and not to lose a minute; never mind your cap! Make haste!”³、“There’s your tea; take it away to that box, and drink it there, and make haste, for they’ll want you to mind the shop. D’ye hear?”⁴ と言われるように、奉公先の仕事もテキパキと動くことが求められるものである。

第二に、悪党たちの行動は時間との戦いである。彼らに遅れは許されないものであり、時には命取りであり、いつも急ぎ足なのである。子どもたちが華麗に披露する掏摸の技も “all done in a minute’s space”⁵ という一瞬の間に為されるものであり、親玉の Fagin は彼らに “Don’t stop here a minute. Not an instant, my dears!”⁶ と忠告している。それから、Bill Sikes も Oliver との作戦時には “Now, young ‘un!’ said Sikes surlily, looking up at the clock of St Andrew’s church, ‘hard upon seven! You must step out. Come, don’t lag behind already,’”⁷ と時間を気にする。

また、このような時間の少なさは冒険の多いこの物語にサスペンスをもたらす効果もある。Miss Maylie に会いに行く Nancy の描写も刻々と進む時間が空間の緊張感を高める。“‘Has it long gone the half-hour?’ asked the girl. ‘It’ll strike the hour in another quarter,’ said the man: raising his lantern to her face. ‘And I cannot get there in less than an hour or more,’ muttered Nancy: brushing swiftly past him, and gliding rapidly down the street.”⁸ や “The clock struck ten, increasing her impatience”⁹ というように、ここでは時計がそのためのいわば装置となっていることも分かる。

そして、Fagin にとって最後に時間は死神として現れる。“Other watchers are glad to hear this church-clock strike, for they tell of life and coming day. To him they brought despair. The boom of every iron bell came laden with the one, deep, hollow sound—Death.”¹⁰ 彼を殺しに来るのは他でもない教会の鐘なのである。

以上を考えると、*Oliver Twist* における時間というのは、下層階級の人物たちの生活の苛酷さのバロメーターであったり、犯罪の成功を左右するものであったり、死の脅威であったりして、サスペンスをもたらしながら物語を進めていくものである。同時に、ロンドンを舞台にする作品らしく時計や鐘は街の教会のものであることが多く、それは混沌とした空間を統一する権威ある秩序となっているとも言える。

3. *Hard Times* における時間と時計

Hard Times での時間や時計の性格を一言で表すならば「機械」である。“Time went on in Coketown like its own machinery: so much material wrought up, so much fuel consumed, so many powers worn out, so much money made.”¹¹ というように、Coketown という架空の産業都市における時間というのはまさに「時は金なり」と言わんばかりなのだ。

そのような時間を顕著に象徴するのが Mr. Gradgrind の “Observatory” に存在する “deadly statistical clock” である。“To this Observatory, then: a stern room, with a deadly statistical clock in it, which measured every second with a beat like a rap upon a coffin-lid”¹² や “neither did the clocks go any faster, or any slower, than at other seasons. The deadly statistical recorder in the Gradgrind observatory knocked every second on the head as it was born, and buried it with his accustomed regularity.”¹³ と淡々と述べられるように、その “deadly” な時間に生きた感覚は無く、“statistical” という統計的な性質はこの小説の中で批判され続ける功利主義 (utilitarianism) の性格を示唆したものとなっている。そして、これらのイメージは作中で繰り返し登場する重要なものでもある。また、このような Coketown における時間について、近藤浩氏は「コークタウンには随分と支配者に都合のよい時間が流れていることがわかる。ここで言う支配者とはバウンダビーのような経営者や、グラッドグラインドのような教育者・政治家のことである。・・・支配者の時間は功利主義社会の時間であり、人々を縛り付けておくために人工的に生み出された時間でもある。」¹⁴ と述べている。

以上のように見ると、Coketown という空間をコントロールするのは均質的で数字上のみ存在する時間であり、Mr. Gradgrind の “deadly statistical clock” は統計中心の功利主義社会への批判といわば致命的な危険を示唆する象徴的な時計なのである。

4. *Great Expectations* における時間と時計

Great Expectations では主に3つのタイプの時計が登場するが、それぞれ異なる感覚の時間を示し、空間を統御している。それらは、まず Joe Gargery の “Dutch clock”であり、次に Miss Havisham の “clock”と “watch”であり、最後に Pip が遭遇する “church clock”である。

第一に Joe の時計を考える。彼の所有する時計は厳密に “Dutch clock”であると書かれているが、これは注釈により “a kind of cheap wooden clock imported from Germany”¹⁵ であることが分かっている。つまり、裕福でない家庭における生活感のある安い木製時計なのだ。言及される箇所を見ると、 “Well,” said Joe, glancing up at the Dutch clock, “[Mrs. Gargery]’s been on the Ram-page, this last spell, about five minutes, Pip. She’s a coming!”¹⁶、 “It was Christmas Eve, and I [Mrs. Gargery] had to stir the pudding for next day, with a copper-stick, from seven to eight by the Dutch clock.”¹⁷、 “here’s the Dutch-clock a working himself up to being equal to strike Eight of ’em, and she’s not come home yet!”¹⁸ などというように、Mrs. Gargery の帰宅時間であったり、クリスマス・プディングのタイミングであったり、この Dutch clock は家庭空間に密接した具体的なものなのである。

第二に、Miss Havisham の時計と腕時計を考察する。それらのものが語り手によって描写される前に、一種の導入の如く、このような一節がある。 “Mr. Pumblechook appeared to conduct his business by looking across the street at the saddler, [. . .] the coachmaker [. . .] the baker [. . .] the grocer [. . .] [and] the chemist. The watchmaker, always poring over a little desk with a magnifying-glass at his eye, and always inspected by a group of smock-frocks poring over him through the glass of his shop-window, seemed to be about the only person in the High Street whose trade engaged his attention.”¹⁹ Hynes によると、この watchmaker に関する言及が意味深長であり、彼は “the passage suggests not only the importance of attending to business and *earning* money, but the need to remember that life must be lived in the day-by-day realm of time concretely measured and accounted for by clocks”²⁰ と解説している。そして、ここから Miss Havisham の特異な時間世界へ入っていくのである。

Miss Havisham の時計や腕時計は具体性を持たない概念的なものである。彼女の他の所有物がある程度詳しく描かれるのに対し、“clock”と “watch”には何の

修飾語も付かず、ただ “her watch had stopped at twenty minutes to nine, and that a clock in the room had stopped at twenty minutes to nine.”²¹ と止められた時刻のみを説明するだけになっている。そして、Satis House の他の時計も全て同じようであると述べられている。²² これらは Miss Havisham が結婚すると思っていた男に騙されたと分かった時刻で止めているという異常な行動によるものであるが、止まった時計たちは屋敷全体の時間を停止させている風に描かれている。この館というのはいわば時間に逆らおうとする Miss Havisham が創ったファンタジーの空間なのである。非現実的ながらも、それは Pip も感ずる所であり、“It was then I began to understand that everything in the room had stopped, like the watch and the clock, a long time ago.”²³ や “So unchanging was the dull old house [. . .] that I felt as if the stopping of the clocks had stopped Time in that mysterious place, and, while I and everything else outside it grew older, it stood still.”²⁴ と書かれる通りである。これらの時計や腕時計は、“ “What do I touch?” “Your heart.” “Broken!” ”²⁵ というやりとりが Pip と Miss Havisham の間でなされるように、彼女の壊れた心臓または心のメタファーにも思える。

第三に、Pip が教会の時計の音を耳にする場面を見てみる。それは、Miss Havisham が Estella の婿として自分に紳士修行をさせてくれちるに違いないという Pip の幻想が打ち砕かれる、Magwitch 再登場のシーンである。“As I shut [the book], Saint Paul's, and all the many church-clocks in the City—some leading, some accompanying, some following—struck that hour. The sound was curiously flawed by the wind; and I was listening, and thinking how the wind assailed and tore it, when I heard a footstep on the stair.”²⁶ そして、事実と向き合った後また Pip は歩き出すが、ここでも教会の鐘が鳴り響く。“[T]he clocks of the Eastward churches were striking five, the candles were wasted out, the fire was dead, and the wind and rain intensified the thick black darkness.”²⁷ これについて Hynes は “live clocks serve to reintroduce Pip to reality”²⁸ と指摘している。つまり、止まった時計が支配するファンタジーの空間と動く時計が制するリアルな空間の対比がここにあるのだ。ちなみに、これは *Oliver Twist* における “church clock” や “church bell” とも共通する、現実社会を管理するものとしての教会のイメージに関連するようでもある。

以上より、Joe Gargery の “Dutch clock” は具体的で物質的な生活に密着したものであるに対し、Miss Havisham の “clock” と “watch” は抽象的で精神的な生活

を支えるものである。また、Miss Havisham の“clock”と “watch”は幻想的な空間を作り出すものであるが、一方 Pip が聴く “church clock”は彼を現実的な空間に立ち戻らせるものである。

5. おわりに

これまでの議論をまとめると以下のようなようになる。*Oliver Twist* では、Oliver や悪党たちは時間に従って忙しなく動かざるを得ず、時間は緊張感や死の恐怖をもたらす存在でもあり、特に教会の鐘はロンドンという街における一種の権力として描かれている。*Hard Times* では Mr. Gradgrind の“deadly statistical clock”と呼ばれる時計で象徴されるような均質的で抑圧的な時間が舞台たる Coketown を支配している。そして、*Great Expectations* では Joe Gargery の具体的な “Dutch clock”と Miss Havisham の抽象的な “clock”と “watch”が対照的であり、また、時間に抗おうとする Miss Havisham の “clock”と “watch”はファンタジー的な空間を創造し Pip もそれに飲まれるが、後で現実の時間を刻む “church clock”によって Pip はリアルな空間に引き戻されることになる。よって、Dickens のこれらの小説において、時計というモノは時間のシンボルになっており、時計と時間は合わせて人物の行動や空間の在り方を支配していると言えるのである。

注

¹ Dickens, Charles, and Philip Horne. *Oliver Twist, Or, The Parish Boy's Progress*. London: Penguin, 2003. 13. Print.

² Ibid., p.113.

³ Ibid., p.50.

⁴ Ibid., p.43.

⁵ Ibid., p.76.

⁶ Ibid., p.104.

⁷ Ibid., p.172.

⁸ Ibid., p.330.

⁹ Ibid., p.330.

¹⁰ Ibid., p.445.

- ¹¹ Dickens, Charles. *Hard Times*. Ware: Wordsworth Editions, 1995. 71. Print.
- ¹² Ibid., p.75.
- ¹³ Ibid., p.84.
- ¹⁴ 近藤, 浩. "『ハード・タイムズ』における時間." *愛知学院大学語研紀要* 31.1 (2006): 68. デイケンズ・フェロウシップ日本支部 電子アーカイヴ. Web. 25 July 2016.
- ¹⁵ Dickens, Charles, and Charlotte Mitchell. *Great Expectations*. London: Penguin, 2003. 486. Print.
- ¹⁶ Ibid., p.9.
- ¹⁷ Ibid., p.13.
- ¹⁸ Ibid., p.50.
- ¹⁹ Ibid., p.50.
- ²⁰ Hynes, Joseph A. "Image and Symbol in Great Expectations." *Elh* 30.3 (1963): 280. *JSTOR*. Web. 24 July 2016.
- ²¹ *Great Expectations.*, p.58.
- ²² Ibid., p.80.
- ²³ Ibid., p.60.
- ²⁴ Ibid., p.125.
- ²⁵ Ibid., p.58.
- ²⁶ Ibid.,p.315.
- ²⁷ Ibid., p.324.
- ²⁸ Hynes, Joseph A. "Image and Symbol in Great Expectations." *Elh* 30.3 (1963): 258-92. *JSTOR*. Web. 24 July 2016.

参考文献

- Dickens, Charles, and Charlotte Mitchell. *Great Expectations*. London: Penguin, 2003. Print.
- Dickens, Charles. *Hard Times*. Ware: Wordsworth Editions, 1995. Print.
- Dickens, Charles, and Philip Horne. *Oliver Twist, Or, The Parish Boy's Progress*. London: Penguin, 2003. Print.

Hynes, Joseph A. "Image and Symbol in Great Expectations." *Elh* 30.3 (1963): 258-92. *JSTOR*. Web. 24 July 2016.

近藤, 浩. "『ハード・タイムズ』における時間." *愛知学院大学語研紀要* 31.1 (2006): 65-77. *ディケンズ・フェロウシップ日本支部 電子アーカイヴ*. Web. 25 July 2016.

2016 年度 S ターム

英語学英米文学特殊講義（武田将明先生）期末レポート

所属：東京大学文学部英語英米文学科

学年：学部 3 年

名前：中越 亜理紗